

久留米の自然



①愛くるしい風貌とは裏腹に成長するにつれ狂暴になる



②足跡は人の赤ちゃんに大きさも形もそっくり

久留米の自然118号

2013年5月1日

アライグマ

撮影日 写真①2011年8月6日

写真②2011年12月15日

撮影場所 ①佐世保市亜熱帯植物園

②鳥栖・御手洗の滝

撮影者 津田堅之介

海外から人間によって持ち込まれた外来生物による環境破壊

動物カメラマン 津田堅之介

1970年代当時、テレビアニメ「あらいぐまラスカル」の人気などから、ペットとしてアメリカから多い年では年間1500頭もの個体が輸入された。1961年の犬山日本モンキーパークからの脱走以来、各地の飼育施設から多数が野外に逃亡すると同時に、アニメの最終回の「動物は自然の中で暮らすのが一番良い」という名目で、意図的に飼い主によって自然へ帰されたことにより日本中に定着が進んだ。

2010年度には福岡、佐賀、大分、長崎、山口の5県で、前年度の約3倍の1422匹が捕獲され、被害総額は2200万円に上った。愛くるしい外見とは裏腹に、日本在来の野生鳥獣やペット時には人を襲ったり、人に感染すれば治療法の無いアライグ

マ回虫、狂犬病などのキャリア動物でもある。更に文化財（久留米でも善導寺で爪痕が確認）を傷つけたりする被害も多発し、久留米市役所でも今年度より捕獲を開始することになった。

なおアライグマは、平成16（2004年）6月2日公布された「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、学術研究目的、博物館、動物園その他これに類する施設における展示教育以外の飼育は違法となり、ペットとしては公布以前から飼育していて、環境大臣に許可された場合のみ一代限りの飼育しか出来ない。違反した場合、個人には3年以下の懲役や300万円以下の罰金、法人には1億円以下の罰金が科される。

久留米市の蝶 49

コムスジ

国分 謙一

寒い冬を過ぎ春の象徴的な桜の花も散った若葉匂う5月となりました。4月末から5月初めはフジの花が盛りとなり、黒木町のフジ祭りなど各地の見どころでイベントが開催されます。この頃出現する蝶としてコムスジがいます白斑紋列が前翅に1列、後翅に2列で合せて3列となるので「小型な三条」と名付けられました。日本にはコムスジと同じく3列の模様をしたよく似た仲間の蝶がいて他に6種類棲息しています、一番ソックリなのが奄美大島より南に棲息しているリュウキュウミスジで、もし一緒に棲息していたら野外で見ただけでは飛び方や習性がほとんど同じで判別は不可能です。(日本では棲息分布が重ならないので間違えることはありませんが、台湾等の国外では重なりと同時に多数の類似種がいます。)

兄弟で昆虫の研究

日本の蝶にはPryer (イギリス人) という兄と弟で違う種類に命名者となっている蝶がいます。コムスジは日本の物は地理的変異があるとして区別され兄が発表しましたが、日本では弟の方が名前を知られております。弟は日本で最初の着色図鑑「日本の蝶」を発行し、明治20年から出版途中の39歳で亡くなりますが3回に分け明治22年に完結されました。昭和10年に復刻されていて当時の九州大学教授・江崎悌三氏が解説されていますが、当時の外国人では稀有な和英文で発行されたことや大変な作業であった事がうかがえます。図版を描いたのは日本人で当時の技術水準の高さに感服させられます、たぶん浮世絵の着色技術が生かされたと思われます。

生物の生活は判らないことばかり

多くの生物は逃げる・隠れる・だますなど色々な方法で身を守っています。コムスジの幼虫が身を隠すための巣は見たことはありますが、調べたことはありませんが図鑑を見ると葉の食べ方に特徴があり中脈を残して葉片のカーテンを作るそうです、そして中脈を残す性質の蝶のグループは葉の裏から表面の生活に移行してきたのではないかと。

私達の生物に関する知識は微々たるもので、幼虫や成虫の行動など不明な点があり判らないことが多く残っています。貴方の観察が新発見となり図鑑を書き換えることになるのでは!

久留米市での観察

4月下旬から10月ころまで久留米市内の樹木が多い場所で見ることができます。都市部では少ないですが、山地や農村地帯ではどこにでも棲息しており、近隣では正源寺(競輪場)や高良台等の日当りの良い低い樹林がある場所が観察には適していて、他の蝶と区別は簡単で飛び方に特徴があり時々羽ばたきスーとグライダーのように飛んでいます、そして方向を変えるときはカクンと折れるようにして変化します。雄は縄張りを持つので低木の葉上に羽を緩やかに開閉して止まり近くに別の個体が来るともつれるように追いかけますが直ぐに何事もなかったかのように戻ってきます。樹木などで小さくて密集した花が咲いていれば吸蜜に訪れているので観察してください、特に白い花が良いようです、また人間の汗にも寄ってきます。

郷土の樹木(20)

ヤブツバキ

猪上 信義

子供の頃花を摘んで密を吸ったり、花飾りを作ったり、草笛や草船を作って遊んだ記憶のある人も少なくなりましたが、それでも皆によく知られている木です。葉は常緑で互生し無毛、表面は濃緑色、クチクラ層が発達して光沢があり、裏面は淡緑色。若い枝は緑色後に淡い緑色を経て、灰白色となり、表面はなめらか、葉は楕円形で長4~8cm、縁にまばらな鋸歯があります。花は2~4月に咲き、冬芽のすぐ下で腋生(エキセイ)し、広い筒型で径5~7cm、濃赤色ですがごく稀に白色もあり、底に多量の密液があります。

多数の雄しべが基部で合わさり、筒状のため、鳥が密を吸う時にくちばしを差し込むと、顔に花粉が付いて、次の花に移ったとき受粉する仕組みになっています。また鳥が留まれるだけの丈夫な構造にしたり、受粉の役に立たない小型の虫が少ない早春期に花を咲かせるように進化したと言われています(詳細は多田多恵子:したたかな植物たち:kk.SCC参照)。果実はほぼ球形で直径2.0~2.5cm(日本の南部には5~6cmに達するリングツバキがある)、中に淡褐色の種子が1~3個あり、多量の油分を含んでいます。

本州、四国、九州、琉球及び台湾に分布し、日本の暖帯域の代表的な樹木で、この地域を生態学ではヤブツバキ帯(又はヤブツバキクラス)というほどです。木の成長は遅いが、10~15mに達します。但し本州日本海側の豪雪地帯には、雪に適合して多数に枝分かれ、樹高が2~3mにしかならないユキツバキが分布します。

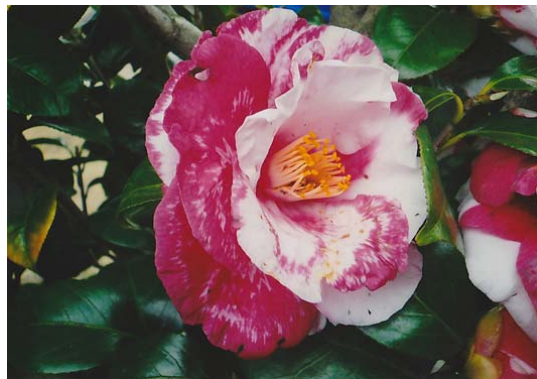
材は紅褐色、緻密で比重は0.81と重く、木槌、木魚、楽器などの他各種の器具材に用いられます。5,500年前の福井県鳥浜貝塚からこの木でできた石斧の柄や飾り櫛が見つかっています。また良質の木炭ができ、蒔絵の金粉を磨くのに用いたり、木灰を紫根染めの媒染剤にするなどの特殊な用途があります。種子からとれる油はツバキ油といい、

食用、整髪用、化粧品などに賞用されます。

また常緑であること、花の少ない冬から早春に花を付けること、花が大きく色鮮やかなこと、木があまり大きくならないことなどの理由から、昔は神聖な木としてあがめられ、のちに庭園木として広く利用されるようになりました。その過程で多数の園芸品種が作られて、その数は数千種類ともいわれています。

久留米周辺では江戸時代末期から園芸種が盛んに作られ、草野町にはその名残の古木が多く見られます。現在の「正義」という品種は、シーボルトがヨーロッパに持ち帰り、ドン・ケラリーと名付けたことで知られています(下の写真は「岩根紋り」という品種)、また戦後、地元の緑化木生産者やツバキ愛好家などが研究会を立ち上げ、様々な品種の収集や新品種を創出したことにより、「久留米ツバキ」としてその名が知れ渡り、現在では全国一の生産量を誇っています。そんな由縁で草野町に久留米ツバキ園が整備されました。

ツバキの語源は厚葉木または艶葉木とされ、いずれも葉の特徴に由来しています。これは日本で作った国字です。中国ではヤブツバキは自生せず、この字はチャンチン(香椿)のことを指しています。これはセンダン科の羽状複葉の落葉高木で、ツバキとは全く異なります。新葉が薄い桃色で目立つため、最近街路樹として時々見かけます。(同じ科のシンジュだという説もあります)。



ヤブツバキ(岩根紋り)

高良川流域のキノコ (その20)

角 正博

前回はカンゾウタケ科でした。今回はニクハリタケ科ニクハリタケ属です。

35. アラゲニクハリタケ (粗毛肉針茸)

Steccherinum rhois

高良川流域では、冬に広葉樹の落枝などで、見かけることがあります。子実体は革質で、ふう傘が発達して半円形で、基部は背着しているか、柄を持つこともあります。表面には環紋があり短毛があります。傘の下面は黄褐色で針があります。肉の断面を見ると、毛被の下に褐色条線状の下皮があります。ニクハリタケ属は、外見が似通っていますが、私の場合は、とりあえず断面をつくり下皮の有無を確認することにしています。

36. ニセニクハリタケ (偽肉針茸)

Steccherinum rhois

これも高良川流域では、冬から春にかけて広葉樹の落枝などで、見かけることがあります。子実体は半背着生で、膜状に広がり、反転して半円形の傘をつくります。傘は革質で淡黄褐色、表面には環紋があり短毛があります。傘の下面には針があります。ニクハリタケ属は、どれも似通っているため、検鏡してシスチジアの結晶の着き方を確認することが一番ですが、野外では、まずアラゲニクハリタケのような下皮がないことを確認します。次にニセニクハリタケは、乾燥標本にしてもかなりの間、やや強烈で一癖あるシナモンのような芳香があるので、この特有の香りを確認することになっています。

生き物に魅せられて 56

ツグミの巻 松永紀代子

2011年秋、ジョウビタキやシロハラなど冬鳥は順調に飛来していた。ところが、そのうちに、目撃できるのは、普段から見られる留鳥や、カモたちになっていた。あちこちで聞かれる「ツグミがおらん、ジョウビタキがおらん」の声。私の観察地、三沢の九州歴史資料館周囲 (以後・九歴) でも冬鳥が少なく静かなものだった。中でもツグミの声がしない。例年だと、樹木のあちこちに群れがとまり、猛禽に驚き空に飛び立つといった行動が見られるのに、いったいどうしたのだろう。

新年になり、ツグミがやっと80羽ほど姿を見せた。ところが、2、3日いて、また静かになった。そんなことが何回か続いてやがて春を迎えた。大風が吹いた日、九歴はツグミだらけになっていた。渡りの途中で寄ったものかもしれない。なんだ、沢山いるではないか。

これまでではツグミたちは一冬を九歴で過ごしているものと思っていた。しかしながら、昨冬の状態から推測すると、いろんな群れが入れ替わり立ち代り来ていたのかもしれない。個体識別のできない野鳥の群れ、なかなか把握は難しい。

ひととき 動物笑い話 その62

ロバ 米田 豊

ロバ、ポニー、ヤギなどを飼っているある農家の夫婦の会話。「このロバはあまり働かないね」と夫が言った。「いつまでも馬鹿ね。貴方がロバと間違えて買ったポニーよ」と妻があきれて言った。

「そうだったか。じゃ、これをロバと交換して3頭にするか。ロバの忍耐力の強さ、実直な点は私に似ているね」と夫は自画自賛。「頭髪がなく、頑固な点は貴方そっくりよ」と妻からやゆされて、夫は「粗食で不良環境に耐える点でもそうだ」と皮肉って言った。料理下手を指摘された妻はカチンと来て「とにかく、ロバはすでに3頭いるから要りません」とピシヤリ。

※ウマ科の家畜で、肩高1m程。ウマに似るが前髪がなく、ひずめの底面は卵形。野生のロバはアジアとアフリカに2種分布。donkeyは人間に対して用いると「馬鹿、まぬけ」という意義。ここでは夫をロバ扱い。

奈良県天理市布留遺跡の水車

高山 美子

2013年3月1日、奈良県天理市豊井町に今も残る水車小屋と水車軸、水車歯車の調査に入った。

現在は、西田氏の建物横にそのままの形で、使用されず静かに残されている。約6年前、地下水路に残された取水場と、その石垣を記録し、当時、日本水車協会会長であった香月徳男氏に報告した。

香月氏は、現地に入って調査を希望されたが、残念ながら病状悪化の為、亡くなられ実現できなかった。

約60年前までは、布留川の水流を導入し、大型水車は回っていたと西田氏は言っている。父親が素麺工場を営んでおりその後は電気の動力機械を搬入し、モーターで製粉、製麺していた。地下室には直径約4mの水車が木製板囲いの中に潜まっている。

水路には、小屋の前より導水し布留川支流に流している。

上流は天理市のダムができて、当時の水量とは比べられない程、少なくなってしまった。

布留遺跡にある石上神社との関連性

物部氏の武器庫としてあったといわれる天理市、山の辺の道にあたる場所に隣接する。この豊井地区は、物部氏が物づくり集団を大陸より呼び寄せ、この谷一面を、製鉄、製銅、武器製造スペースと見られている。

ふいごで高熱炭を燃やし、鋳物を型成したと考えられる。巴型鋳型が出土している。

齊明天皇と天地天皇、天武天皇や額田天皇などがこの土地から多勢の工人を引き連れ、瀬戸内海を通り、筑紫に入り、662年に朝倉橋広庭の宮に遷った。今後は三連水車との関連性があるのではと調べを進める予定。



天理市豊井まちの水車軸



水車軸



水車歯車



水車小屋天井部分に残る木製車軸



石臼



現在の西田氏宅と水車小屋 そうめん工場

高良川流域の地衣類 (その8)

角 正博

前回、形状によって地衣類を三つに便宜的に分けました。さらに高良川流域の樹状地衣の概要を知るために。すでに述べた参考文献をもとに、高良川流域の樹状地衣類の簡易検索表を考えてみました。

1. 子柄や擬子柄などの形が樹状(樹枝状)である。

2. 地衣体は、どちらかといえば着生生物の側面から垂下しているものが多い。

3. 地衣体断面が扁平で、軸がない。地衣体は硬く、灰緑色で中実。岩上や樹皮上に生育する。地衣体の葉片幅2mm以下で粉芽をもつ。→カラタチゴケ科カラタチゴケ属コフキカラタチゴケ

2. 地衣体の子柄や擬子柄、子実体は、着生生物の上に起立している。

3. 擬子柄が中実で硬く灰白色で、岩上に生育する。擬子柄にはサンゴ状の棘枝がある。黒褐色の子器のほか暗緑色の頭状体をつける。→キゴケ科キゴケ属

4. 擬子柄の長さが3cm以下、単一棒状で、スチクチン酸を含む。頭状体は小球の集合からなる。→ヤマトキゴケ

3. 地上に生育し、子柄をほとんどつけず、灰緑色から淡緑色の鱗葉が発達し、群落を作る。→ハナゴケ科ハナゴケ属マキバハナゴケ類(閉鎖無盃類:子柄灰白色・無穿孔・無盃、子器褐色)

4. 鱗葉の長さは4~10mm前後、幅5mm以下である。乾燥すると鱗葉は背面側に巻き、白い腹面が目立つ。→マキバハナゴケ

3. 子柄は中空のため、キゴケ類より軟らかく、灰白色~淡緑色、頭状体は欠く。

4. 子柄は尖枝状、鱗葉を欠く。地衣体は淡緑色(日向は茶褐色)で子柄のところどころに穴があいている。→ハナゴケ科トゲシバリ属トゲシバリ

4. 子柄は漏斗状で灰白色から淡緑色である。→ハナゴケ科ハナゴケ属ヒメジョウゴゴケ類(閉鎖大盃類:子柄灰白色・無穿孔・有大盃、子器褐色)

5. 髓層呈色反応K+黄色、P+橙赤色で、アトラノリンとフマルプロトセトラール酸を含む。→ヒメジョウゴゴケ。(フマルプロトセトラール酸の代わりにプロローム酸を含む場合はヒメジョウゴゴケモドキ)など

4. 子柄は主に単一棒状、灰白色から淡緑色である。

5. 子柄先端に淡褐色の子器をつける。

6. 子柄の先端に小さな盃をつけ、時には盃縁から伸びた枝に子器をつける。→ハナゴケ

科ハナゴケ属ヤグラゴケ類(閉鎖小盃類:子柄灰白色・無穿孔・有小盃、子器褐色)

7. 髓層呈色反応K-、P+橙赤色で、フマルプロトセトラール酸とホモセッカ酸を含む。→ヒメレンゲゴケ。(K-、P+黄色で、プロローム酸とウスニン酸を含む場合はタイワンレンゲゴケ)

5. 子柄先端に赤色の子器をつける。

6. 子柄は無盃で粉芽があり、先端に赤色球状の子器をつける。→ハナゴケ科ハナゴケ属コアカミゴケ類(赤実白体類:子柄灰白色、子器赤色)コアカミゴケ

3. 子実体が橙色で、棒状~錐状である。

4. 子実体がきのこで地衣体は痂状である。→シロソウメンタケ科キリタケ属アリノタイマツ

平成24年度四季の森ふれあい教室指導者連絡

会議が開催さる

大木 武彦

標記の連絡会議が平成25年3月4日、久留米市農政部生産流通課の主催により久留米市役所会議室で開催されました。指導者4団体が出席しました。当会からは橋田会長と大木が参加しました。

1. 平成24年度四季の森ふれあい教室事業結果については、周知不足による参加者なし1件、雨天中止が2件ありやや寂しい開催結果となった。

2. 平成25年度のふれあい教室事業計画についても生産流通課は戦略的事業と位置づけており、24年度とほぼ同一内容で開催されるが、昨年の豪雨による災害復旧の遅れから集合場所やコースの変更が協議された。

3. 四季の森の災害復旧スケジュールとしては、6月末で遊歩道(竹の子・後谷コース)整備、樹木の択伐その他が終了し、7月以降通行可能の予定である。

4. 新たな案件として林野庁の指示により、今後の四季の森イベント活動等で森林コースを通る場所でのヘルメットの着用が義務付けられた(頭に木が落下して死亡する事故が発生したため)。このため生産流通課で大人用、子供用計50個のヘルメットを準備したとのことである。

突然の話であり、これからの各団体の運営の中で対応は様々であると思われる。

5. 指導者団体からの要望・意見としては、イベント参加者増のためのチラシの設置場所の拡大、年間ふれあい教室開催計画一覧表の各団体への配布、高良山北回り遊歩道の早期復旧、消耗品の支給範囲等があった。他に連絡事項として、24年12月から森林公園の売店の管理が御井町の古賀ご夫妻により安定運営されており、午前9:30から午後4:30まで開店、木曜日が定休日、冬季は薪ストーブが入るということでした。

平成25年総会 記念講演会「中国・ネパール・ 奥アマゾン 野生動物を追い続けて」

報告 石橋 一也

今年の総会の記念講演として、久留米在住で世界をまたに掛けて活躍されている動物写真家、津田堅之介さんにお話を頂きました。

佐世保出身の津田さんは、幼い頃から自然と生き物が大好きで、将来は獣医を志し、日本獣医生命科学大学に入学されました。しかし、色々な人との出会いの中で、動物写真家になるという夢を持ち、昆虫写真家の栗林慧氏に師事し、動物写真の修行をされました。そして、現在はフリーの動物写真家として活躍されています。

講演の中では、津田さんの幼い頃やヘビメタ姿の写真を初めとして、日本国内外で撮影された生物と自然、そして親交のある人々の写真が、それらにまつわるエピソードと共に紹介されました。どのお話も面白く興味深いものばかりで、本当にあつという間に時間が過ぎていきました。その中で、師事された栗林慧氏がフィールドワークをされている時に、実は津田さんのお父様と出会っていた、という話には、人と人の縁のつながりの不思議に感心をしました。

写真を見てお話を聞いていると、一言で動物写真といっても、津田さんが撮る写真の一枚一枚には、その動物の生態がきちんと記録されているということに気付かされ驚きを持ちました。つまり、その生物の生態を知り、その生物の気持ちになって寄り添わないと本物の写真は撮れないということなのでしょう。津田さんは、正に「歩く百科事典」。そんなカメラマンが私達の地元に住んで、活躍されていることにも嬉しさを感じた講演会でした。

余談ですが、私と津田さんの出会いは、今をさかのぼること20年ほど前。当時私は大学生で、津田さんは結婚され長男が生まれるか生まれないかの頃。一緒にニホンジカやニホンカモシカなどの生態調査をやっていました。その頃から、芋焼酎とヘビメタを愛するちょっと変わったお兄さんという感じでした。

ある日、ニホンカモシカの調査で、津田さんが急斜面を先頭で歩き、私がお後に続きました。急な斜面で、津田さんが手をついた岩に私も手をついたところ、私の左手の指に激痛が走りました。岩の先を覗くと、とぐろを巻いたマムシがいたのです。結局、私は病院へ連れて行かれ、肩までパンパンに腫れ上がり、数日間の入院となりました。そのことで、後々津田さんは調査隊のリーダーか

ら「岩の上にあったマムシにデコパッチンしたやろ」と散々からかわれたそうです。その後20年ほど経ち、久留米の地で津田さんの息子さんをきっかけに再会し、津田さんとの縁を頂いていることに感謝しています。

最後になりますが、津田さんが、現在熱中しているのはパラモーター。これに乗って、鳥と一緒に空を飛び、その姿を写真に収めたいとパラモーターの特訓中。皆さんも、その映像が見られる日を楽しみにして下さい。

津田さんの主な撮影暦

- ・2006年 エクアドルで、完全な野生状態で樹液を吸うヘラクレスオオカブトの撮影に成功。NHKワイルドライフ、ダーウィンが来た！で紹介された。
- ・2009年 エクアドルで、グンタイアリ100万の群の中の一つの女王アリの撮影に成功。NHKワイルドライフ、ダーウィンが来た！で紹介された。
- ・2010年 マレーシアで、『クワガタ・ウォーク ～ソニーの3D映像で昆虫体験』取材。
- ・2012年初春公開 東宝映画「日本列島 いきものたちの物語」の撮影に参加。

諏訪野町 蔦川正義

一枚の写真！その背後にあるすさまじいばかりの事前調査・研究に感動しました。森羅万象が歩いているのだ。

上津町 梅野 忠

サル温泉入りは強い猿だけや、ネパールが標高100m、トラがおくびょうとか知りませんでした。行動力がスゴイと思いました。話はわかりやすかった。



講演会の様子

総会報告(平成25年1月20日開催)

1、会員の異動状況 会員数 79名(平成24年12月31日)現在

2、平成24年度活動報告、補助金の件

例会開催

月日	NO	内容	内容・その他	人数
1月22日	395	総会記念講演会	テーマ「温暖化と食糧・生物」 講師 河内俊英氏 場所 久留米市役所3階	25名 26名
3月25日	396	筑後川春の野草を愉しむ会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会 場所 筑後川防災施設くるめウス	46名
5月27日	397	高良山樹木の名札付け	場所 高良山南回りコース	16名
6月24日	398	キノコの自然観察とキノコ汁会 講師金子周平	場所 高良台演習場周辺	14名
7月16日	399	水辺の自然観察会と魚ツチング(雨天のため中止)	場所 高良川下流 筑後川防災施設くるめウス前	0
9月22日	400	筑後川観月会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会	62名
10月14日	401	ネイチャーゲームと自然観察会(申込者0のため中止)	共催 くるめネイチャーゲームの会 久留米市生産流通課	0
12月2日	402	高良山キノコ観察会とキノコ汁会(雨のため中止)	共催 久留米市生産流通課 申込者48名	0

会報「久留米の自然」発行

号数	発行年月日	表紙写真	ページ数
114	2012年1月1日	天の川 太陽系が属している川(吉田)	8ページ
115	2012年5月1日	イラガイツツバセイボウ(大木)	14ページ
116	2012年9月1日	イズノハコ(橋田)	10ページ

総会、会議等 ※幹事会兼事務局会議は毎月第1水曜日に開催(午後7時30分より)

日時	内容	場所
1月11日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
1月22日	平成24年総会	久留米市役所3階会議室
3月7日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
5月2日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
7月4日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
9月5日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
11月7日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F

懇親事業

1月22日(日) 新年会 酒菜「まつげん」

他団体への協力

月日	内容	場所(主催者)
7月22日	河川愛護月間展示と発表 古賀	筑後川防災施設くるめウス(筑後川河川事務所・福岡県・久留米市)
11月23日	緑のハイキング講師 橋田・角・大木・中野・梅野	高良山・兜山(緑の市民会議)

補助金

福岡都市圏広域行政事業組合から平成24年7月30日に環境対策支援補助金26万円を頂きましたことを報告します。

(会計年度 2012年4月～2013年3月となっています。報告は4月)

「身近な植物」ボランティア養成講座6ヶ月コースを9月～25年2月まで第4土曜日を実施

受付 9:30 10:00～12:00 集合 筑後川防災施設くろめウス

コース くろめウス前から高良川河川敷周辺 講師 橋田沙弓

実施日 24年9月～25年2月まで。次回は25年4月～9月コースは高良山の樹木を中心に行う予定

募集は西日本新聞の情報ガイドで行う。応募者4名、4回目にまた新入参加者1名あり。

1回目 9月29日 テーマ 植物の名前の由来と帰化植物 資料作成 4名

2回目 10月27日 テーマ 食べられる野草、薬草、救荒植物 資料作成(雨天) 2名

3回目 11月24日 テーマ ひつつきむしなど植物の種子 資料作成(雨天) 1名

4回目 12月22日 植物の葉の形、資料作成(雨天) 1名

※参加者にはメールアドレスを教えて頂き、報告の会報と写真も送っている。

平成24年度収支決算承認の件

(収入の部)

項目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減額	備考
前年度繰越金	415,947	415,947		
会費	140,000	112,000	28,000	2011年分7人 2012年分40人 2013年分7人 2014年分1人 2015年分1人
例会行事費	20,000	38,100	△18,100	
読本代	20,000	16,045	3,955	ひとつの川から見えるもの、動物笑い話の販売
カンパ・利子	50,000	44,433	5,567	講師謝礼を含む5月27日、11月23日他
補助金	0	260,000	260,000	環境対策支援補助金を含む7月30日
収入計	645,947	886,523	△240,576	

(支出の部)

項目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減額	備考
会報作成費	140,000	149,860	△9,860	114号、115号、116号
人件費(講師謝礼)	30,000	30,000	0	1月22日1人、9月22日4人
通信費	25,000	29,315	△4,315	
印刷コピー費	5,000	10,433	△5,433	
文具費	30,000	36,729	△6,729	
事務局費	35,000	17,700	17,300	
行事費	40,000	71,609	△31,609	
使用料及び賃料	20,000	76,072	△56,072	パケットテスト PH電子ペーパー
備品購入	130,000	241,669	△111,669	ビデオカメラ、USBカメラ、パソコン
予備費	190,947	8,750	182,197	
次年度繰越金	0	214,386	△214,386	
支出計	645,947	886,523	△240,576	

3、平成25年度事業計画承認の件

例会開催

月日	NO	内容	内容・その他
1月20日	403	総会記念講演会 講師津田堅之介	テーマ「中国・ネパール・奥アマゾン野生動物を追い続けて」場所 防災施設くるめウス
3月31日	404	筑後川春の野草を愉しむ会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会 場所 防災施設くるめウス
5月26日	405	高良山樹木の名札付け	場所 高良山北周りコース
6月30日	406	キノコの自然観察とキノコ汁会 講師金子周平	場所 高良台演習場周辺
7月21日	407	水辺の自然観察会と魚ツチング(高良川下流)	場所 筑後川防災施設くるめウス
9月14日	408	筑後川観月会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会 場所 筑後川防災施設くるめウス
10月20日	409	ネイチャーゲームと自然観察会	共催 くるめネイチャーゲームの会 久留米市生産流通課
12月1日	410	高良山キノコ観察とキノコ野菜カレー 講師角正博	場所 高良山 共催 久留米市生産流通課

会報「久留米の自然」発行

号数	発行年月日	表紙写真	ページ数
117	2013年1月1日	野鳥	10ページ
118	2013年5月1日		
119	2013年9月1日		

総会、会議等 ※幹事会兼事務局会議は毎月第1水曜日に開催(午後7時30分より)

月日	会議名	場所
1月9日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
1月20日	総会	くるめウス
3月6日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
5月1日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
7月3日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
9月4日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
11月6日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F

懇親事業

1月20日(日)午後5時30分「ビスヌ」久留米百年公園

他団体への協力

7月21日 河川愛護月間展示と発表 筑後川防災施設くるめウス

11月23日 緑のハイキング講師 高良山・兜山 主催 緑の市民会議

3、平成25年度収支予算承認の件

(収入の部)

項目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減額	備考
前年度繰越金	214,386	415,947	△201,561	
会費	140,000	112,000	28,000	2000×70人

例会行事費	40,000	38,100	1,900	例会準備他
読本代	15,000	16,045	△1,045	ひとつの川から見えるもの
カンパ・利子	50,000	44,431	5,569	講師料他
環境対策支援補助金	0	260,000	△260,000	25年度も応募予定
収入計	459,386	886,523	△427,137	

(支出の部)

項目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減額	備考
会報作成費	140,000	149,860	△9,860	117号 118号 119号
人件費(謝礼金)	30,000	30,000	0	講師料
通信費	25,000	29,315	△4,315	会報発送費他
印刷コピー費	5,000	10,433	△5,433	ちらし、資料作成
文具費	30,000	36,729	△6,729	用紙他
事務局費	35,000	17,700	17,300	ファクシミリ用インクリボン、PCインク他
行事費	85,000	71,609	13,391	料理作成のための食材費他
使用料及び賃料	20,000	76,072	△56,072	軽トラック賃料他
備品購入	80,000	241,669	△161,669	
予備費	9,386	8,750	636	
次年度繰越金	0	214,386	△214,386	
支出計	459,386	886,523	△427,137	

4、役員選任の件

	改選後
会長	橋田沙弓
副会長	河内俊英
	国分謙一
幹事	丸山由紀子
	角正博
	石橋一也
事務局	古賀信夫
	大木武彦
	中野昭剛
	梅野忠
会計	古賀信夫
会報編集	橋田沙弓
	古賀信夫
	大木武彦
	丸山由紀子
会計監査	高山美子
	安元康時
顧問	荒巻健二
	松富士将和



総会の様子

動物笑い話その61に誤記がありましたので訂正します。

6行目・・・(微突起)にもなり→(微突起)もあり

10行目・・・魚に気付かないように→魚に気付かれぬように

14行目・・・運搬ミスは愛らしいけど→運搬ミスは愛らしいけれど

《行事案内》

◇ 第405回例会：

高良山・樹木の名札付けと豚汁会

高良大社から反対側の北回り遊歩道の樹木の名札付けをします。樹木を身近に感じられます。事前に申し込みをお願いします。

〔日時〕：5月26日(日)雨天中止

〔集合・解散〕10:00 13:30

高良大社前駐車場

〔参加費〕：無料 定員30名

〔持参するもの〕：筆記用具、帽子、お茶

〔共催〕：久留米市農政部生産流通課

◇ 第406回例会：

高良台・キノコ観察会とキノコ汁会

高良台周辺の道路を歩きながら、キノコの観察会を行います。講師金子周平氏(福岡県森林林業技術センター)によるご指導です。事前に申し込みをお願いします。

〔日時〕：6月30日(日)雨天決行

〔集合・解散〕：10:00・13:30

上津小学校運動場前

〔参加費〕：200円 定員20名

〔持ち物〕：水筒、帽子、筆記用具

◇ 第407回例会：

水辺の自然観察会と魚ッチング教室

くるめウス横の高良川の浅瀬で植物と魚類の観察教室を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日時〕：7月21日(日)雨天中止

〔集合・解散〕：10:00・12:30 くるめウス前

〔参加費〕：無料 定員20名

〔持ち物〕：着替え、帽子、お茶、筆記用具

〔共催〕：ヒナモロコ郷づくりの会

◇ 第408回例会：

筑後川観月会

天体観察と星座、お抹茶も頂きます。事前に申し込みをお願いします。

〔日時〕：9月14日(土)雨天中止

《事務局だより》

2月に、我が子たちと鳥の巣箱を作り、家の庭の隅に設置しました。シジュウカラが来ないかなと期待を持って作りました。あまり環境が良くないのは分かりながらの設置でしたが、まだ、何の気配もありません。春の訪れと共に野鳥がやってくるのをもう少し待ちたいと思います。

話は変わりますが、2月中旬に自爆して手の指を骨折してしまいました。とある整形外科で治療をしていましたが、途中でずれてしまい。結局、入院して手術となりました。これから活動的になる季節です。皆さんも、怪我や病気にはくれぐれもご注意ください。(石橋一也)

ホームページもご覧下さい。

<http://kurumenoshizen.net/>

1. 会員異動

入会 寺崎基生 安達美津子 實藤勝枝

退会 泉須美子 高木朋子 緒方徳子 森ちづこ
平野文子 宮地信文

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号119号は平成25年9月1日発行予定です。原稿の〆切は8月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会(定例)は原則として奇数月第1水曜日の19:30~21:30まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(5月1日、7月3日、9月4日)

久留米の自然

平成25年5月1日第118号
発行 久留米の自然を守る会

E-mail hashida@kurumenoshizen.net

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623 (古賀)

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408